

共同受講の恵みに感謝して

い き もと こ
壺岐 基子 (前橋キリスト教会)



私は一講座を受講しています。東京バプテスト神学校の授業を受け始めて5年ほどになるでしょうか。

数年前まで私たちの教会では信徒説教を取り入れた礼拝を毎月行っていました。証しと説教の違いさえよく理解していなかった私が説教をするというのは簡単なことではありませんでした。説教原稿に取り組むたびに発熱しなされながらの日々でした。そんな私たちに当時の牧師が東京バプテスト神学校で『信徒のための説教』講座を受講を勧めてく

れました。それが私たちの共同受講の始まりです。

共同受講は受講料も後援会割引で半額、しかも授業はオンライン。教会や自宅でも受講できます。また対面での受講同様質問もでき、有意義な時間を過ごしました。その後も毎年のように受講を続けてきました。現在は伊藤世里江先生によるルカによる福音書を学ぶ講座を受けています。特に受講生数名単位のグループでの分かち合いが気に入っています。同じ教会の方とは教会学校

などで聖書の分かち合いをすることはありますが、他の教会の方々と分かち合う時を持つことは恵みです。

公開講座では誰が受けても楽しくてわかりやすい授業が展開されています。『この授業、教会のみんなと受けたかったね。』と共同受講する仲間と語り合うことがあります。これからも後援会費納入だけでなく、授業を受けることでも東京バプテスト神学校を支えていきたいと思っています。

神学校献金・後援会献金 実績 (2022年 4月~11月)

● 後援会献金 (個人) 105名・117件 合計 971,000円

芦沼光雄 伊佐山大智 井伊肇 井形英絵 井上昭子 井上政博 井東元 壺岐基子 奥谷恭子 奥田光子 奥田厚子 岡田魁人 加山礼子 加藤郁雄 加藤泉 角田秀明 角田芳子 釜池徹 (2) 鬼澤寛 菊池順妃 吉原正子 吉田壽宏 (3) 久保公平 宮下めぐみ 古家克務 古根村聖子 古川博子 (2) 高柳美枝子 今給黎真弓 佐々木宣子 佐川富美子 砂川真 斎藤美津栄 坂元幸子 坂川里味 鮫島泰子 山形昌美 山口慎子 山崎清美 山川許子 山本弘夫 山本恵子 山崎美奈 四津明美 秋山信夫・純子 十時節子 勝俣昌也 小出久美 小勝琢生 小松澤一枝 松村誠一 松田健太郎 松田俊介 松田朝子 (2) 松田美智代 松田美奈子 上原克也 城田裕子 常廣澄子 森山ひろみ 深澤和子 神山武 水尾謙作 星田恒 西方泉 青木節子 石垣茂夫 石水美佐子 川勝高宏 (3) 浅野陽子 村上真由美 村上千代 対田澄子 大磯宏 大下仁 (2) 大原広志 滝沢幸子 池内淳 中根淨 中山恒彦 中澤なつみ 鳥飼好男 辻真理子 天野寛 田村真由美 田中宣之 渡部富夫 都丸利子 藤田明子 内田泰亮 富田直美 武宮陽子 福本綾子 (3) 平井純子 (2) 豊永義典 北野弘子 (2) 木元和子 木原道雄 木村一充・まどか 野尻明子 劉斐竹 鈴木宗一・幸子 鈴木明子 蓮香隆夫 澤田猛

● 後援会オンライン月々支援 7名

小牧由香 村上千代 林雄植 奥田稔 蛭川潤子 美園和彦 城倉啓

● 教会献金実績 44件 合計 1,714,862円

● 集会献金実績 44件 合計 401,733円

東京バプテスト神学校の働きを支援するために、
あなたも「後援会」にご入会ください

1. 定期支援

個人会員：年額1口 ¥5,000 何口でも歓迎いたします

2. 自由献金支援

支援額も、支援回数もご自由にお決めください。

郵便振替口座 **00210-8-75658**

東京バプテスト神学校後援会

※専用払込票をご希望の方は、メールにてお申込下さい。

500円からご支援できます!

後援会の会費が **月々500円から**
ご支援いただけるようになりました。

ホームページの「後援会月々支援」のページで、
クレジットカードを使ってご支援いただけます。
スマホやタブレットからもお手続きができますので、
ぜひ皆様のお祈りとご支援をお待ちしています。



◀ **今すぐアクセス!**
<https://tbts.jp/online-shien/>
(後援会月々支援ページ)



東京バプテスト神学校 後援会

No.34

NEWS

Homepage ▶ <http://tbts.jp> Mail ▶ seminary@tbts.jp

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 茗荷谷キリスト教会内 03-3947-5141
発行日：2023年1月26日 発行者：東京バプテスト神学校後援会 秋山 信夫

巻頭言

沢山の祈りの手によって支えられる

あき やま のぶ お
後援会会長 秋山 信夫 (上尾キリスト教会牧師)



日頃から、東京バプテスト神学校(以下「東バプ」)を祈りに覚えて、お捧げくださっていますことを、心から感謝いたします。

東バプは、沢山の祈りの手によって支えられています。毎年「日本バプテスト連盟」が東バプのために約200万円を支援してくださっています。これは全国の諸教会の祈りの支援でもあると言えます。又「三連合」(北関東・東京・神奈川)から250万円の支援があります。これは三連合の諸教会の祈りの支援でもあります。更に「諸教会」から約300万円の支援があります。教会でも祈りをもって東バプを支えてくださっていますが、出来れば、全国壮年会連合への献金と等分に捧げてくださればと思っています。東バプの財政は大変厳しいからです。そして後援会に入って個人として支援してくださっている方が140名ほど

います。以前は100名に満たなかったのですが、神学校の方で、後援会に入ると受講料を半額にしてくださいという特典を付けてくださったことによって、後援会に入ってくださいの方が、1.5倍に増えました。その結果、後援会から約120万円を支援することができました。神学校を支えるだけではなく、神学校で学ぶことにより、神学校を更に深く知って、神学校を支えていくという良い循環ができていると思います。昨年からはクレジット決済による一口500円からの支援が、神学校のホームページからできるようになりましたので、ご活用くださればと願っています。これからも沢山の祈りの手で東バプの働きを支えていきたいと思っています。それは、この祈りの手が沢山あることによって、神学校の働きが安定し、充実していくからです。 昨年の「神学校デー」の案内に、「誰

でも学べる神学校」「リモートを通して全国(全世界)どこでも学ぶことができます」と記されていました。その通りで、授業はほとんどリモートで行われ、受講生だけではなく、講師も全国、否、海外からも参加してくださっています。家庭で、教会で、神学校の授業が学べるとは、何という恵みでしょうか。神学校に行く時代から、神学校が教会に来る時代になったと言えます。連盟の『これからの伝道者養成基本理念』にも「信徒一人一人が教会を担う主体であり、一人一人が伝道者であることを再確認する」とありましたが、東バプの授業を用いるなら、教会に仕える信徒の養成が、又、牧師の継続教育がスムーズになされていくのではないのでしょうか。一緒に魅力ある神学校を作るために、置かれたそれぞれの場所で、祈りで繋がっていきましょう。

後援会「定期総会」報告

後援会「定期総会」を書面で行い、18名の会員より回答が寄せられ、「2021年度の活動報告」「2022年度の新役員」「2022年度の活動計画案」が承認されました。

尚、ご意見として・・・

* 献金額のうち活動費として10万円であるなら、残りの110万円がどのように用いられているのかも明記してほしいとありましたが、後援会は、独自会計をもたず、神学校から活動費をいただいているので、献金そのものは神学校の会計に直接进入します。

* 「後援会ニュース」に関して・・・卒業生の証しに感動しています。いつも楽しみに拝見しています。

* 役員の方々の尊い働きに、感謝申し上げます。役員のためにお祈りしています。

* 後援会受講として、神学校でよい学びの時間が与えられますことを感謝しています。

これまで、そしてこれからも

たなか のぶ ゆき
田中 宣之

(筑波バプテスト教会牧師)



私が東京バプテスト神学校に入学したのは2013年4月、54歳の時でした。28年勤続した勤め先を早期退職して新たな歩みを始めました。前半は高速バスで約2時間の道のりを通学しましたが、後半はリモート授業が大きな助けとなりました。また、リモート授業によって地元で再就職をすることもできました。

私が千葉・若葉教会を初めて訪れたのは、2017年7月9日、神学校週間の説教奉仕のためでした。当時は再就職先で働きながら、筑波教会では主事をし、夜間は東京バプテスト神学校で学び、10月からは月2回は千葉・若葉教会で説教を担うという忙しくも充実した日々を送っておりました。

2018年4月1日から内山主任牧師との共同牧会を担い、翌年から牧師と宗教法法人代表となりました。やっと軌道に乗り始めたころ、2020年3月に始まった新型コロナウイルスの感染拡大によって社会活動や教会での活動も大きな制限を受けるようになりました。

緊急事態宣言発出の際には教会に集うことも許されず、各家庭で礼拝を守ることしか叶わない日々が続きました。多くの教会ではインターネットを活用したりリモート礼拝などが行われる中、高齢者の多い千葉・若葉教会では毎週「教会だより」を発行して教会員にお届けしました。そして2022年6月にはこれまで3年となっていた任期を無期限として再招聘をいただき、お受けする決意をいたしました。

ところが、その翌月に筑波バプテスト

教会の牧師招聘委員会よりお手紙と総会資料が届きました。筑波バプテスト教会は私の出身教会であり、約30年の信徒生活を通して献身の決意に導かれた教会です。それでも、この手紙を受け取るまでは今がその時なのだと、全く考えていないことでしたが、『しかし、イエスはその人に、「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われた。』（ルカによる福音書9章62節）とのみ言葉が与えられ、思いを新たにいたしました。

この度、2022年12月31日をもって千葉・若葉キリスト教会の牧師を辞任することになりました。この原稿を皆様がお読みになる頃には筑波バプテスト教会に転入会し就任していることでしょう。

振り返れば、千葉・若葉教会での働きの半分の期間がコロナ禍の影響を大きく受けました。

お互いに顔と顔を合わせて談笑したり、愛餐会でともに食卓に着くことが制限されたことにより、それまで当たり前だと思っていたことが、教会での生きる

営みを支えていたことに気づかされました。それでも不自由の中にある自由、主を仰ぎ見て生きる信仰の自由が日々与えられている恵みに感謝をすることを再確認することもできました。

2018年から4年9か月にわたり千葉・若葉キリスト教会の皆様を支えられて牧会を経験できたことは、私たち夫婦にとって大きな恵みと受け止めています。

また、東京連合東ブロックの教役者会のご支援と協力に心から感謝しております。

私の離任の後しばらくの期間、千葉バプテスト教会、木更津伝道所、篠崎キリスト教会から説教者を派遣していただけることになりましたことは感動の出来事と受け止めております。若葉教会と支援教会の新たな歩みに主の祝福を願い祈ります。

これからも、日本バプテスト連盟に連なる皆様とともに時には支え、時には支えられながら前に向かって歩いて行こうと思います。



2022.12.18 アドベント礼拝にて

公開講座に参加して

あおき せつこ
青木 節子

(上尾キリスト教会)



2年前から東京バプテスト神学校の公開講座を受講しています。神学校で学ぶなんて、夢のまた夢、考えたこともありませんでした。神学校で学ぶのは、神様から特別に召命をいただいて献身をする、いわゆる牧師を志す人に限られていると思っていたからです。それが一般信徒にも広く開かれており、様々なテーマの講座があることを知り、受講してみようと思いました。最初は難しすぎて最後まで続けられるか不安でしたが、回を重ねるごとに自分なりに新たな発見があり、今まで信じてきたことが様々な角度から再検討を迫られるようになりました。靈感を受けたとはいえ人間によって編纂されてきた聖書、その聖書の中には矛盾する箇所も多くあります。それらを踏まえつつ神様の御心を求めていくことの大切さに気付かされました。何か自分の信仰の世界が広がられていくように思えました。まだまだハードルは高く消化不良な点も多いですが、学びの場が与えられていることに心から感謝しています。今後とも様々なテーマの講座に期待しています。誰でも、いつでも学べる神学校であってほしいと願っています。

東京バプテスト神学校卒業から現在に至る証

おがつ たくお
小勝 琢生

(蓮根バプテスト教会 牧会担当牧師)



いつもお祈りいただきありがとうございます。神学校を卒業して以来のこの2年間、主イエスから頂いている数え切れない恵みをお証します。単独牧会の召命感を頂いていた私ですが、コロナの影響もあって卒業時には実を結ぶに至らずでした。その様な時も主は教会実習を受けていた蓮根バプテスト教会の高木先生を通して、招聘があるまで蓮

根の牧会担当牧師として奉仕する様にと導いてくださり現在に至っております。コロナ禍で蓮根教会自体の活動に制限がある中、牧会とみことばのご奉仕の一部を担当する恵み頂き、今は口マ書と創世記、ヨハネを講解させて頂いております。主は聖書を通してご自身のご計画の真ん中へと私たちを導いて下さり、卒業論文で扱った「平和」こそが主のみこころであることをますます確信させて頂いております。「隣人を自分自身のように愛しなさい」。教会の私たちが主イエスの十字架の贖いの愛にある赦しを追い求め、互いに愛し合い、互いに大切にしようことの恵みを感謝する毎日です。更に、瀕死だった90歳の義母を介護する機会が与えられ、祈りと隣人の愛によって回復目覚ましく、主イエスにある復活のいのちの恵みを実感しております。

汲めども尽きぬ泉の水

つのだ よしこ
角田 芳子

(浦和バプテスト教会)



日々の生活に、少しゆとりが出始めたこの2年間余り、聖書を学び直してみたいという意欲が起こってきました。私は長きにわたり、ミッションスクールで小学生を相手に教壇に立ち続けてきました。教科の指導のほかに、毎日のクラス礼拝・年に何度かは全校礼拝での当番も回ってきました。目を輝かせお話を聞いてくれる子どもたちに、教師になってよかったと日々感じ、約40年が経過しました。また、教会でも小学科・成人科担当として毎週の準備に余念がありませんでした。退職後は幼稚園の園長も仰せつかり、一生懸命励みました。それらの任務から解放され、やっと主人ともども時間が与えられた時、初めて神学校で学ぶという選択肢が生まれました。お話の準備に時間がとれず、付け刃で聖書のみ言葉を紐解くこともあった過去の経験を振り返り、反省することもあります。そこで、私たちの生活の源の聖書を学び直してみたいという願いがふつふつと起こってきました。今年の学びは、後期に入り「グループで学ぶルカによる福音書」を伊藤世理江先生と一緒に学ばせて頂いております。多方面から、ご意見を伺え興味は尽きることはありません。世界のベストセラー聖書を、神学校で仲間たちと共に泉を汲み続けてみませんか。